ゲイビデオに振り回された男の末路

Qchadell

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ゲイビデオに振り回された男の末路

【Ｎコード】
Ｎ２０５１Ｑ

【作者名】
Ｑｃｈａｄｅｌｌ

【あらすじ】
ゲイビデオ転売に失敗した中学の頃の同級生の家に行ったらとんでもない事が起きるお話です。

（前書き）

誰も得しない話です。ツンデレとかそういうのも一切ないですので
ご注意を。

「あ～そうそう、桜木荘って言うアパート。うん、高速出てすぐ。何時ぐらいに来るの？　ああ、２０分か、ＯＫ。藤岡に伝えとくから、じゃ」

昨日、中学の同級生の藤岡から電話がかかって来た。相談に乗ってほしい、家に来てくれとの事だ。更に藤岡はもう一人の同級生、山口にも電話したらしい。しかし山口が藤岡の家に来るのは２０分後との事だ。

俺は携帯電話をポッケにねじ込み、桜木荘の階段を登った。手すりが錆びついており、触れた手がオレンジ色に染まっていた。しかも階段を踏みしめるごとにキィと不愉快な音が響く。山口は太っているからあいつが踏んだだけで壊れるんじゃないだろうか。

何となく俺が役者の下積み時代に住んでいたアパートに似ている。

軋む廊下を歩き、２０４号室、藤岡の部屋に着いた。インターフォンがついてないのでコンコンとドアを叩くと、痩せた男ががぬっと現れた。

「よう」

「おう」

藤岡だ。

部屋に入るとむっと苦々しい臭いが鼻を突く。埃っぽく、狭い部屋だ。俺はぜんそく持ちなんだぞ。

「はあ……」

黒くなったバナナの皮がまず目に入った。どうだっていいが。

「俺さあ、もう駄目だよ」

「何が」

「見てもらいたいものがあるんだ」

そう言って、藤岡は陰に置いてあったどでかい段ボール箱を取り

出し、中を開けた。
　中身は所狭しに敷き詰められたＤＶＤだった。
「何この大量のＤＶＤ」
　一つ手に取って、パッケージを見る。『悶える男たち、野獣と化した親父たちがイケメン達を貪る！』と堂々と書いており、その下にはおっさんたちが全裸で抱き合っている写真が。
「……」
「俺よお、このビデオがな、オークションで段ボール１箱分が１万で出品されてたんだよ。それでさあ、俺な、こう思ったんだよ、これで落札して、転売してぼろ儲けしようって。んで、無事１万で落札出来たんだ。んでさあ、別のオークションサイトで出品したんだ。５万で。だってこれ３００本ぐらいあるんだよ。５万でも全然安いくらいじゃん？　でもさあ、入札０でさあ、こりゃヤバいって思って、駅前で売ったんだ。んで一人３０本ぐらい買ってくれた髭もじゃおじさんが居てさ、名刺交換までしてくれたんだけど、その後すぐに警官が現れて捕まりかけたんだよ。それからさっぱりでやべえよ。もう売れねえよ」
「……」
「聞いてる？　俺結構喋ったんだけど。とにかくさあ、これでやっとフリーター脱出できると思ったのに無理だったんだ。んで、どうやればこれ売れるかお前と山口に相談しようと思ってたんだよ」
　藤岡は必死に語っているがもはや俺の耳には一切入ってこない。
「俺さあ、自殺しようとも考えたんだよ。でもさあ、新聞とかで『ゲイビデオ転売に失敗し、フリーター自殺』って出るの絶対嫌じゃん」
　ああ、俺がまだ売れっ子劇団俳優になる前の下積み時代。金がなくて、マグロ漁船にでも乗ろうかと思った時、とある男が俺に近づき……それから、３万の仕事があると言われて、それから、変なビルに入って、それから、変なおっさんと、カメラ持ったおっさん……。

「うわあああああああああああああ！」
思い出したくない。なんでこのＤＶＤがここにあるんだよ。
「何だよびっくりしたなあ」
「おい、これ燃やすぞ」
「何でだよ。これからこれを売るんだよ」
「売ってたまるかボケ！　劇団首になるわ！」
呆気にとられている藤岡を背に、キッチンのコンロの火をつける。
「せめてこのＤＶＤだけでも燃やさせてくれ」
「だから駄目だって、これは立派な商売道具なんだから」
藤岡も立ち上がり、俺の腕を引っ張る。
「何でだよ！　お前実はこれ見たんじゃないだろうな！　俺を脅迫しようって腹か？」
「何訳わかんねえ事言ってんの」
藤岡が更に腕を引っぱり、バランスが崩れそうになる。こんな狭い中で男２人が倒れたら多分どっちか頭打つ。
「駄目だって、それ１本だってマニアの金持ちだったら１万円ぐらいで買ってくれるかもしれないって、分け前もちゃんとやるから」
「うるさいうるさい！」
俺は藤岡の引き留める手を振り払い、パッケージを開け、小さいガスコンロの上にＤＶＤを置いた。
「あー！　何やってんだよ」
それを取ろうとする藤岡。俺はすかさずそれをブロック、藤岡を突き飛ばした。
ガスコンロをみると、火がＤＶＤを徐々に包み込んでいく。
「ふぅ、これでもう再生できないな」
安堵して、藤岡の方を見る。倒れたまま、動こうとしない。
「いや悪かったな、あのＤＶＤは俺が買ったってことにして、１万やるよ」
「……」
まだ藤岡は動こうとしない、答えようともしない。ゆっくり近づ

く。嫌な予感がした。
藤岡は目をつぶったまま、ずっと天井の方を向いている。
「なあ、なあって。怒ってんのか？」
口では冗談っぽく言っているが、すかさず脈を手に取る。ない。首筋、心臓。全て動いてない。
「嘘だろおい」
死んでる。
その時、ガチャッと家の扉が開く。
心臓が跳ね上がり、それと同時にそちらをみると、髭もじゃのおっさんがそこに居た。
「藤岡さん、前に駅前でＤＶＤ３０本買った僕だけどさあ」
とズカズカと入ってくる。
「あれ、藤岡さん寝てるの？　あなた友人？」
「そうっすけど」
何と言うタイミングに何と言う奴が来たんだ。誰だこいつは。
「いやさあ、この前は持ち合わせがなくて３０本しか買えなくてさあ、金おろしてまた駅に行ったらもう居なくて、名刺を頼りにここまで来たって訳」
「そうっすか……」
「んでさあ、この段ボール１個分売ってほしいんだ。金に糸目はつけないよ」
どうする俺。ここは１つこれを売っぱらっちゃって、帰らしてから藤岡のあれを処理するか。それしかないよな。
「分かりました、藤岡には後で言っておきます」
「よーしありがとう！　２００万円ここにあるんだ」
「２００万！」
「それで良いかな」
「勿論、です」
「じゃ、商談成立！」
髭もじゃおじさんは段ボールに敷き詰められたＤＶＤを入念にチ

エックしだす。そりゃ２００万だからな。
「あれ、これは？」
「はい？」
無造作に置かれたＤＶＤのパッケージを手に取る髭もじゃさん。
それは、間違いなく、さっき燃やしたＤＶＤのパッケージだ。
「いや、それは違うんです。それはあれなんです」
「これ中身ないけど」
「それは違うんです、違う奴なんです」
「違うって何」
パッケージの写真をマジマジ見るおっさん。写真と俺を交互に見ている気がする。
「あれ、これ君じゃないの」
「うわあああああああああああ！」
気が付いたら俺は髭もじゃおじさんの首を絞めていた。どれだけ俺が売れっこ劇俳優になるまで頑張ったと思ってるんだ。
貴様らのようなゲイビデオとかフリーターとは訳が違うんだ。
馬乗りになり、鬱陶しい髭を払いのけ、首を絞め続ける。髭もじゃさんはジタバタと体をよじらせていたが、次第にそれもおとなしくなってきた。
コンコンと音がしたと思うと、またもや部屋の扉が開いた。
「いやはや、遅れちゃってすまんかったなあ」
遅れてくると言っていた山口だ。
「何せ道路が混んでて、しかもエンストしたりしてガソリンスタンドに……何やってんだお前ら！」
また目撃者を増やしてしまった。山口が1歩、2歩、と後退していく。1歩踏みしめるごとにキィと不愉快な音が響く。5，6歩と後退し、手すりにもたれかかった山口。
「た、助けてくれ、殺さないでくれ、誰かあああああ！」
その時、もたれかかっている手すりのネジが、折れた。
バキっと音を響かせながら、手すりと共に落ちていく山口。

「うわあああああああああ！」
車の屋根に思いっきり落ち、ピーピーピーと防犯用サイレンが鳴る。
「……」
気付くと、髭もじゃおじさんは死んでいた。
「ハァ、ハァ、ハァ、ハァ」
疲れた。俺はこれからどうなるんだろうか。
「ハァ、ハァ、ハァ、ハァ、ハァ……あーゲホッゲホッ」
咳が止まらない。煙だ。ＤＶＤの煙だ。ダイオキシンだ。換気扇は無いのか。
ふらふらになりながらも立ち上がる。換気扇のスイッチを押そうとした時、また大量の煙を吸い込んでしまった。
「ゲホッ」
俺は喘息なんだぞ……。
とりあえず、火を消す。ドロドロになったＤＶＤだけが残った。
「ゲホッゲホッ、うえっ」
こりゃ近いうちに死ぬな俺。

とあるマンションのとある部屋で、とあるテレビを見ているとある男が１人。

『え～次のニュースです。昨夜未明、桜木荘と言うアパートで、舞台俳優の関根顕さんの死体が発見されました。まず、アパートの住人の証言によると、突然ガシャンと言う音がして、外に出ると、車の屋根に男が横たわっており、警察と救急車を呼んだとの事です。
そして警察がアパートの２０４号室に入ったところ、関根顕さん、藤岡孝史さん、そして身元不明の死体が発見されました。
警察の調べによりますと、藤岡孝史さんの後頭部に打撲の跡があり、テーブルの角と一致したため、死因は明らかなようです。

そして関根顕さんは多量のダイオキシンが検出されたのとの事です。署長によりますと、その他一人の死体については、今のところ捜査を見送っているとコメントしました。『

少し日本語がおかしいニュースキャスターの顔面が切り替わり、テレビ映像に段ボールと、札束が映りだされた。

『え～、現場の一室には大量のゲイビデオが敷き詰められた段ボール箱、そして身元不明の死体の懐には札束が４つほど入っておりました』

「あれ？　この段ボール箱、見た事あるな。それにゲイビデオ……？」

有田ミカンの段ボール箱。

「あ！　思い出した、俺がオークションに出品した奴だ！」

その叫び声を聞いて、俺の彼氏の豊美が現れた。豊美はオカマである。

「何よ、どうしたの」

「いや俺昔さあ、ゲイビデオ売る事務所経営してたんだよね。んで、３００本ほど売ったんだけど残念ながらさっぱり売れずに潰れちゃったんだ。それであれから……５年ぐらい経って、作ったＤＶＤが押入れから出てきて、それをオークションで出品したってわけさ。ハーハッハッハッハッハ」

豊美が怒りながらこっちを見ている。

「どうした」

「私以外の男と寝たのね？！」

「あ？」

「さいってい！」

元テコンドーを習っていた豊美のグーパンチが俺の頬に突き刺さる。

別れるわ、と一言いい、豊美は家を出て行った。

（後書き）

こりゃひどい

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2051q/

ゲイビデオに振り回された男の末路

2011年1月17日21時10分発行